

明治美術学会 会員業績録

(2005年4月1日～2006年3月31日)

この夏、会員に対し2005年4月1日～2006年3月31日の間に発表した主要論文等の報告を依頼した。以下がそのリストである。なお、上記期間の枠を越えているものは掲載していない。返信ハガキに名前を記していなかった方については、そうと思われる名前に()を付して末尾に掲げた。名前が推定できなかったものは省いた。誤植等の責は丹尾に帰せられる。

名前	共著者	論文名/書名	掲載誌/掲載書	発行	巻号	刊行年月
青木茂		解題	『鷺湖及鼎湖』覆印本	中央公論美術出版		2005年9月
青木茂		一身で二つの人生を生き抜く	『小野忠重全版画』	求龍堂		2005年11月
青木茂		新・旧刊案内	『一寸』	書痴同人	22～25号	2005年4・7・11月、 2006年2月
浅野智子		大原美術館工芸館に関する一考察	『藝叢』	筑波大学大学院人間総合科学芸術学研究室	22号	2006年3月
荒井経		日本画材料の近代化 狩野芳崖筆「仁王捉鬼図」の位置	『近代画説』	明治美術学会	14号	2005年12月
荒屋鋪透		『グレー・シュル＝ロワンに架かる橋 黒田清輝・浅井忠とフランス芸術家村』		ポーラ文化研究所		2005年9月
荒屋鋪透		ポーラ美術館の明治・大正の洋画	『黒田清輝、岸田劉生の時代—コレクションにみる明治・大正の画家たち』展図録	財団法人ポーラ美術振興財団ポーラ美術館		2005年9月
荒屋鋪透		書評『バリー九〇〇年・日本人留學生の交遊—「パンテオン会雑誌」資料と研究』	『美術研究』	東京文化財研究所	387号	2005年10月
稲賀繁美		描写と記述：近代視覚世界の形態学と市場の遷移—方法論的反省— (Depiction and Description: Morphology of Modern Visuality and Marketplace in Transition)	『美術史論壇』	韓国美術研究所	第20巻特集号	2005年上半年
稲賀繁美		『母なるカーリー』、『インド生活の経緯』と美術批評の周辺—岡倉天心滞インド期著作へのあらたな洞察	井波律子・井上章一編『表現における越境と混淆』(日文研叢書36)	国際日本文化研究センター		2005年9月
稲賀繁美		『合気道』の近代—その戦前から戦後への断絶と継承—武術・武藝・武道の周辺を巡って	E..クロップベンシュタイン・鈴木貞美編『日本文化の連続性と非連続性 1920-1970』	勉誠出版		2005年11月
植田彩芳子		〔大会報告〕横山大観筆《聴法》と「エクスプレッション」—画中人物の性格、感情の表現をめぐる—	『美学』	美学会	223号	2005年12月
植田彩芳子	ヒロコ・ジョンソン (訳・植田彩芳子)	ワーグマンとベアトによる幕末画像資料と錦絵新聞	『浮世絵芸術』	国際浮世絵学会	151号	2006年1月
植野健造		『日本近代洋画の成立 白馬会』		中央公論美術出版		2005年10月
歌田眞介		野十郎の衝撃	『没後30年高島野十郎展』図録	朝日新聞社		2005年12月
歌田眞介		座談会「日本の油絵修復の歩みの中で」(歌田眞介・小谷野匡子・山領まり・作間美智子)	『文化財保存修復学会誌』	文化財保存修復学会	50号	2006年3月
江川佳秀		明治初年の美術留学生井上辨治郎をめぐる(上、下)	『徳島県立近代美術館ニュース』	徳島県立近代美術館	53,54号	2005年4,7月
大谷省吾		モダン都市の広告と商業美術	『コレクション・モダン都市文化』	ゆまに書房	10巻	2005年5月
大谷省吾		吉原治良研究のこれまでとこれから	『生誕100年記念吉原治良展』図録	朝日新聞社		2005年10月
大谷省吾		シュルレアリスムの影響を受けた日本の画家たちにおける、性と死の表象について	『藝叢』	筑波大学大学院人間総合科学芸術学研究室	22号	2006年3月
大谷芳久		藤牧版画の後摺りについて(11)《井の頭風景》	『一寸』	書痴同人	22号	2005年4月
大谷芳久		藤牧版画の後摺りについて(12)《朝霧》と昭和五年作問題(その1)	『一寸』	書痴同人	23号	2005年7月
大谷芳久		藤牧版画の後摺りについて(12)《朝霧》と昭和五年作問題(その2)	『一寸』	書痴同人	24号	2005年10月
大槻晃実		櫻井忠剛と関西洋画壇	『櫻井忠剛と関西洋画の先駆者たち』展図録	(財)尼崎市総合文化センター		2005年5月

大槻晃夫		日本伝統工芸の形態を用いた油彩作品に関する研究	『平成17年度文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「日本近代産業史の実証的研究成果報告書」』			2006年3月
岡戸敏幸		子規のみたもの(一) ガラス戸と「僕ノ庭ノ空」	『天為』	天為俳句会	182号	2005年10月
岡戸敏幸		子規のみたもの(二) 土の首	『天為』	天為俳句会	183号	2005年11月
岡戸敏幸		虹をみつげに	『月刊 たくさんのふしぎ』	福音館書店	248号	2005年11月
小野迪孝		河鍋晩齋揮毫「新富座妖怪引幕」考	『晩齋』	財団法人河鍋晩齋記念美術館	88号	2005年8月
五十殿利治		美術の「近代」と美術家の「行為」	『講座 日本美術史』	東京大学出版会	6巻	2005年4月
五十殿利治		明治末における美感と「美術」の制度	『感性工学』	感性工学会	5巻3号	2005年5月
五十殿利治		1930年代日本におけるキュビズム評価	『アジアのキュビズム』	国際交流基金		2006年2月
甲斐紫人		「無産者新聞時代」の「アサヒグラフ」における柳瀬正夢の風刺画の検討(1)	柳瀬正夢研究誌『ねじ釘』	柳瀬正夢研究会	4号	2006年2月
影山賢次		画家高橋源吉の実像—山寺における最後の展覧会—	『山形市文化振興事業団紀要(旧山寺芭蕉記念館紀要)』	山形文化振興事業団	11号	2006年3月
金子一夫		美術科教育の歴史	井上正作編『美術の歴史・美術科教育の歴史』	大学教育出版		2005年6月
金子一夫		小山正太郎資料(四) 遊映録州稿	『五浦論叢(茨城大学五浦美術文化研究所紀要)』	茨城大学五浦美術文化研究所紀要	12号	2005年12月
金原宏行		解説	『覆刻(合本) 高村光太郎訳「ロダンの言葉」』	沖積社		2005年12月
亀井志乃		共鳴する空間—中戸川吉二と里見諒の北海道／東京—	『2006 資料情報と研究』	北海道立文学館		2006年3月
河上眞理		サンフランシスコにおけるカッペレットイ	『日本建築学会大会学術講演梗概集』	日本建築学会		2005年9月
川口直宜		椿椿山筆 玉堂富貴・遊蝶・藻魚圖	『國華』	國華社	1320号	2005年10月
川口直宜		平福百穂「堅田の一体」について	『泉屋博古館紀要』		22巻	2006年3月
河田明久		「草土」の変容—大正期絵画にみる生命の図像	『大正期美術展覧会の研究』	中央公論美術出版		2005年5月
河田明久		戦争「絵画」の隘路について—挿絵・パノラマ・戦争画	『美術フォーラム21』	醍醐書房	12号	2005年9月
河田明久		戦う兵士／護る兵士—銃後の自意識の図像学	『岩波講座 アジア・太平洋戦争 第3巻 動員・抵抗・翼賛』	岩波書店		2006年1月
北川太一		『詩稿「暗愚小伝」 高村光太郎』		二玄社		2006年3月
北川太一		『新帰朝者光太郎—「緑色の太陽」の背景—』		蒼史社		2006年4月
木下直之		殿様の銅像	『講座 日本美術史』	東京大学出版会	4巻	2005年9月
木下直之		屋根の上のつくりもの	『講座 日本美術史』	東京大学出版会	5巻	2005年10月
木下直之		記念碑と彫刻家	『シリーズ都市・建築・歴史』	東京大学出版会	8巻	2006年4月
金恵信		「家」と付き合い、「家」に抗う	『現代思想』	青土社	33巻	2005年9月
金恵信	鈴木杜幾子・馬淵明子・池田忍・金恵信(共編)	『交差する視線—美術とジェンダー2』		ブリュッケ		2005年11月
久世夏奈子		岡倉覚三とボストン美術館	『美術史』	美術史学会	159冊	2005年10月
児島薫		着物の女性像に見る近代日本のアイデンティティ	『交差する視線—美術とジェンダー2』	ブリュッケ		2005年11月
児島薫		桃夭塾卒業生、本野久子について	『実践女子大学文学部紀要』	実践女子大学文学部	48号	2006年3月
河野元昭	佐藤康宏他	『講座 日本美術史』		東京大学出版会	2巻	2005年5月
河野元昭		『北斎の花』(浮世絵ギャラリー1)		小学館		2005年10月
五味美里		三浦勝男編『鎌倉の地名由来辞典』(分担執筆)		東京堂出版		2005年9月
齊藤裕子		構造社と「総合試作」	『構造社—昭和初期彫刻の鬼才たち』展図録	(株)キュレイトーアズ 宇都宮美術館		2005年6月
作間美智子	歌田眞介・小谷野匡子・山領まり	日本の油絵修復の歩みの中で	『文化財保存修復学会誌』	文化財保存修復学会	50号	2006年3月
迫内祐司		齋藤素庵とその時代	『構造社—昭和初期彫刻の鬼才たち』展図録	(株)キュレイトーアズ 宇都宮美術館		2005年6月

佐々木央		近代<焼絵>補遺(1)	『日本の民芸』	(財)日本工芸館	598号	2005年10月
佐々木央		近代<焼絵>補遺(2)	『日本の民芸』	(財)日本工芸館	599号	2005年12月
佐々木央		近代<焼絵>補遺(3)	『日本の民芸』	(財)日本工芸館	600号	2006年2月
猿渡紀代子		長谷川潔 芸術のひみつ	『銅版画家長谷川潔 作品のひみつ』展図録	横浜美術館(企画・監修)・玲風書房(発行)		2006年1月
猿渡紀代子		Challenging Past and Present, The Metamorphosis of 19th century Japanese Art (Edited by Ellen P. Conant)		University of Hawaii Press		2006年2月
澤田佳三		<目的芸術>としてのプロレタリア美術と戦争美術	『昭和の美術 1945年まで—<目的芸術>の軌跡』展図録	新潟県立近代美術館		2005年11月
塩谷純		再興日本美術院のひとつ—あるいは大正期の大観	『大正期美術展覧会の研究』	中央公論美術出版		2005年5月
清水重敦		解体修理の誕生—関野貞による古社寺修理手法の開拓	『関野貞アジア踏査』	東京大学出版会		2005年5月
清水重敦		建築における過去	『都市・建築・歴史 7 近代とは何か』	東京大学出版会		2005年7月
清水重敦		『明治時代館』(木下直之他監修)		小学館		2005年11月
鈴木まどか		日本における古代エジプトコレクションとその保存	『倉敷芸術科学大学紀要』	倉敷芸術科学大学	11号	2006年3月
鈴木まどか		『備中倉敷美術館』構想と大原美術館—美術館の概念の過去と現在—	『倉敷の歴史—倉敷市史紀要』	倉敷市	16号	2006年3月
鈴木廣之		明治期における物の価値と蛭川式胤	『明治聖徳記念学会紀要』	明治聖徳記念学会	41号	2005年6月
高尾曜		柴田是真の作品について	『近世輸出入工芸品の調査研究II』	東京文化財研究所修復技術部		2006年3月
高木博志		記念祭の時代—旧藩と古都の顕彰	佐々木克編『明治維新期の政治文化』	思文閣出版		2005年9月
高木博志		茨木キリシタン遺物の発見	『新修茨木市史・年報』	茨木市		2005年11月
瀧井直子		藤雅三の仕事—アメリカでの活動を中心に—	『近代画説』	明治美術学会	14号	2005年12月
滝沢恭司		浮世絵モダンと時代精神	『浮世絵モダン』展図録	町田市国際版画美術館		2005年10月
滝沢恭司		マヴォの国際性とオリジナリティー(韓国語)	『美術史論壇』	韓国美術研究所	21号	2005年
滝沢恭司		意識的構成主義からプロレタリアのグラフィックへ	『水声通信』[特集 村山知義とマヴォリストたち]	水声社	3号	2006年1月
田中修二		近代日本彫刻と第一次世界大戦	『大正期美術展覧会の研究』	中央公論美術出版		2005年5月
田中修二		両大戦間期の日本の彫刻界	『構造社—昭和初期彫刻の鬼才たち』展	(株)キュレイターズ 宇都宮美術館		2005年6月
田中修二		“つながらなさ”と“つながり”—昭和戦前・戦中期の彫刻	『昭和の美術 1945年まで—<目的芸術>の軌跡』展図録	新潟県立近代美術館		2005年11月
田中秀隆		皇紀二千六百年の利休—秀吉の近代的受容を手がかりに	『金鱗叢書』	徳川黎明会	32輯	2005年4月
田中秀隆		ハビトゥスとしての芸術—ブルデュー芸術社会学の射程—	『理論社会学の可能性』(富永健一編)	新曜社		2006年2月
谷口英理		アヴァンギャルドとセクシュアリティ—マヴォノ『放浪記』	『水声通信』	水声社	3号	2006年1月
谷口朋子		『夢デザイン』		ピエ・ブックス		2005年4月
谷口朋子	石川桂子	『竹久夢二のおしゃれ読本』		河出書房新社		2005年5月
谷口朋子	堀江あき子	『こどもパラダイス 1920-30年代絵雑誌に見るモダン・キッズらいふ』		河出書房新社		2005年10月
立花義彰		静岡近代美術年表稿 大正編	『静岡県博物館協会研究紀要』	静岡県博物館協会	29号	2006年3月
丹尾安典		会津八一と早中教育部の画家たち	『会津八一 絵画の世界』展図録	会津八一記念館		2005年9月
丹尾安典		壺体・國吉清尚	『比較文学年誌』	早稲田大学比較文学研究室	42号	2006年3月
丹尾安典		山口八九子資料 IV—八九子の日記(昭和八年五月~九月)	『早稲田大学会津八一記念博物館紀要』	早稲田大学会津八一記念博物館	7号	2006年3月
千葉慶		「大東亜美術」について	『鹿島美術研究年報』		22号 別冊	2005年11月
千葉慶		戦争と悲母観音	『イメージ&ジェンダー』		6号	2006年3月